

わずかな説明の差が人々の接種意向を左右

パーセント表示と人数表示でも差 ～新型コロナワクチンに関する RISS 調査～

このたび関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構（RISS：The Research Institute for Socionetwork Strategies）は、一般の人々を対象として、新型コロナワクチン接種意向に関するインターネット調査（回答者数 8,355 人・調査期間 2021 年 1 月 27 日～2 月 3 日）を実施しました。その結果、新型コロナワクチン接種を希望する人々の割合は、ワクチンに関する説明の仕方によってかなり異なることがわかりました。ワクチン接種という重要な判断が、説明の中身や伝え方のわずかな違いによって大きく左右される可能性について注意喚起することが、この情報発信の目的です。私たちはこうした人間行動の特性を理解し、自らの接種判断にあたってはワクチンに関する情報を的確に把握し、冷静な判断を下すことが必要です。また、新型コロナワクチンについて他人に説明する立場にある人々（医療・介護関係者、保護者など）は、被説明者の意向を十分見極めることが求められます。

本件の ポイント

- 説明の中身や伝え方次第で、「ワクチンを打ちたい」最小 57.8%・最大 76.0%
- 伝え方の違いで生じる 6.6～10.1 ポイントの差は、行動経済学の知見と合致
- これらの結果は、人々の接種意向を操作するために用いられるべきではない
- ワクチンに関する丁寧な説明は、結果的に人々の接種希望率を高める可能性がある
- 人々の十分な理解を促す情報提供を行い、個人の判断を尊重することが重要

日本でも新型コロナウイルスのワクチン接種開始が近づく中、今後多くの人々が、自らが接種を行うか否かの判断を行うこととなります。また他人に接種意向を尋ねる立場となる人々も数多くいます。

本調査は人々の新型コロナワクチン接種意向が、ワクチンに関する説明によって受ける影響を見極めることを目的に実施されました。その中で、ランダム化比較試験の手法を用いて、説明の中身や伝え方を変えた様々な質問（Q1～Q5）に対する人々の接種意向を分析しました。

Q1 では特に情報を与えず、単純に

「あなたは新型コロナワクチンを、打ちたいと思いますか？」

と尋ねました。接種希望者は 58.2% でした。

Q2 では Q1 に有効率に関する以下の情報を付け加えました。

「ある町で、100 人の新型コロナ患者が出たとします。もし、この 100 人があるワクチンを打っていたら、95 人は発病を防げたことがわかっています。」

すると接種希望者は 76.0% に大幅に増えます。

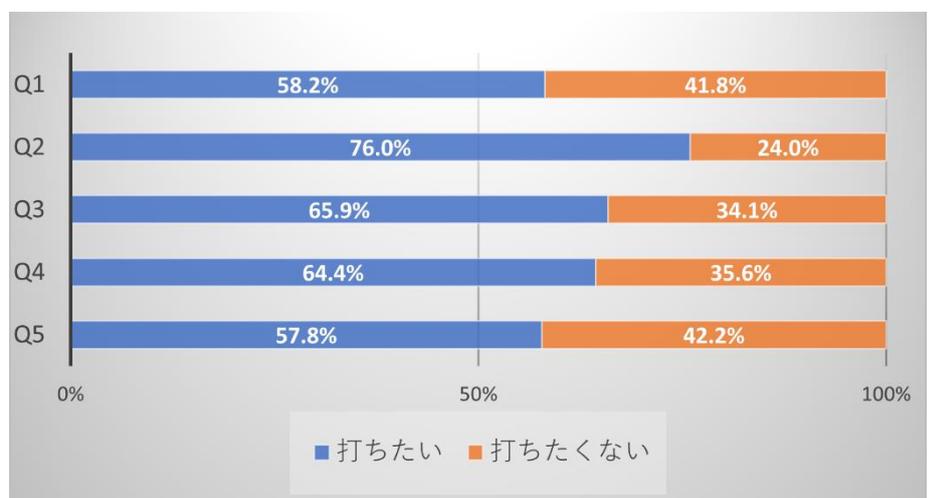
Q3 では Q1 に付け加える有効率に関する情報を否定的な表現にしました。

「もし、この 100 人があるワクチンを打っていたとしても、5 人は発病を防げなかったことがわかっています。」

すると情報の実質的な内容は Q2 と同じであるにもかかわらず、接種希望者は 65.9% に大幅に減少します。

Q4 では Q2 に副反応に関する以下の情報を付け加えました。

「0.02% の割合で、副作用かもしれない重い症状が出たこともわかっています。」¹



¹ 調査対象の一般の人々にとって理解しやすくするため、質問文では「副反応」に代えて「副作用」とした。

すると接種希望者は 64.4%に減少します。

Q5 では Q2 に付け加える副反応に関する情報をパーセンテージではなく人数で表現しました。

「10 万人のうち 20 人の割合で、副作用かもしれない重い症状が出たこともわかっています。」

すると情報の実質的な内容は Q4 と同じであるにもかかわらず、接種希望者は 57.8%に減少します。

このように、新型コロナワクチンに関する説明の中身や伝え方次第で、接種希望者の割合は 57.8%~76.0%と大きく変化します。説明の中身が同じである Q2 と Q3 の比較では、ワクチンの有効率を肯定的な表現から否定的な表現にすると、接種希望者は 10.1 ポイント減少することがわかります。また同様に説明の中身が同じである Q4 と Q5 の比較では、副反応の割合をパーセント表示から人数表示に変えるだけで、接種希望者が 6.6 ポイント減少することがわかります。このように伝え方が変わるだけで人々の接種意向は変化します。Q2 と Q3 の違いは「感情フレーミング効果」、Q4 と Q5 の違いは「分母の無視」と呼ばれます。いずれも行動経済学の用語であり、人間が選択する際に生じる、傾向的な「クセ」を意味します。

肯定的な表現と否定的な表現、およびパーセント表示と人数表示が人々の判断に影響を与えるという結果は重大です。こうした結果を利用して特定の方向に人々の接種意向を操作しようとすることは決して望ましくありません。副反応の説明の際には、パーセントと人数の両方を示して、これらが同じ意味であることを伝えるなどの配慮が求められます。

また、否定的な情報の追加は、必ずしも接種意向の低下につながるわけではありません。情報を与えなかった Q1 との比較では、Q5 で接種希望者の割合がわずかに低くなっているものの、Q2~Q4 では接種希望者の割合が高くなっています。ワクチンの有効率や副反応に関する詳しい説明は、人々のワクチン接種に対する判断を助け、結果的に高い接種希望率につながる可能性があると言えます。

ワクチン接種には、個人の発症や重症化を防ぐ効果があるとともに、社会全体の接種率が上昇することで、新型コロナ感染症の拡大を防ぐ効果が期待されます。しかし、接種率を引き上げることはこの情報発信の目的ではありません。人々への新型コロナワクチンの説明に際しては、今回の質問文に含まれない情報も併せて提供し、十分な理解を促すことが重要です。その際に、副反応の「鮮明なイメージ」（後述）にとらわれて接種をためらっているように思われる人がいたとしても、本当の理由を見極めることは困難です。また仮に見極めることができたとしても、その人の気持ちを尊重し、無理な説得は避けるべきです。

■ 調査結果の詳細

● 研究グループ

関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構 (RISS) ワクチン接種行動研究グループ

小川 一仁 (関西大学社会学部教授)

川村 哲也 (帝塚山大学経済経営学部講師)

難波 敏彦 (関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構ポストドクトラルフェロー)

本西 泰三 (関西大学経済学部教授)

森保 妙子 (長崎大学熱帯医学研究所助教)

● 調査概要

〔調査方法〕 インターネット調査 〔調査期間〕 2021 年 1 月 27 日~2 月 3 日 〔調査項目〕 37 問

〔調査対象〕 調査会社のモニター (20~79 歳) 計 8,355 人

※「(年齢: 10 歳区切り) × (性別)」毎の割合が、実際の人口割合とほぼ同じになるように調整

1. 質問内容

- 以下の質問に対する答え（「打ちたい」または「打ちたくない」）から、カッコ内の接種希望率を計算した。

Q1. あなたは新型コロナワクチンを、打ちたいと思いますか？ (「打ちたい」 58.2%)

Q2. ある町で、100 人の新型コロナ患者が出たとします。
もし、この 100 人があるワクチンを打っていたら、95 人は発病を防げたことがわかっています。

あなたはこの新型コロナワクチンを打ちたいと思いますか？ (「打ちたい」 76.0%)

Q3. ある町で、100 人の新型コロナ患者が出たとします。
もし、この 100 人があるワクチンを打っていたとしても、5 人は発病を防げなかったことがわかっています。

あなたはこの新型コロナワクチンを打ちたいと思いますか？ (「打ちたい」 65.9%)

Q4. ある町で、100 人の新型コロナ患者が出たとします。
もし、この 100 人があるワクチンを打っていたら、95 人は発病を防げたことがわかっています。

す。

でもその場合には、0.02%の割合で、副作用かもしれない重い症状が出たこともわかっています。

あなたはこの新型コロナワクチンを打ちたいと思いますか？（「打ちたい」64.4%）

Q5. ある町で、100人の新型コロナ患者が出たとします。

もし、この100人があるワクチンを打っていたら、95人は発病を防げたことがわかっています。

でもその場合には、10万人のうち20人の割合で、副作用かもしれない重い症状が出たこともわかっています。

あなたはこの新型コロナワクチンを打ちたいと思いますか？（「打ちたい」57.8%）

- ランダム化比較試験の手法を用い、上記5つの質問を8,355人の回答者に1つずつ割り当てた。各質問グループの特性に有意な差はなかった。
- ワクチンの有効率と副反応に関する数字は、ファイザーとBioNTechによる第3相臨床試験の結果を使用。（Polack, F. P., Thomas, S. J., Kitchin, N., Absalon, J., Gurtman, A., Lockhart, S., ... & Gruber, W. C. (2020). Safety and efficacy of the BNT162b2 mRNA Covid-19 vaccine. *New England Journal of Medicine*, 383(27), 2603-2615.）
- Q2とQ3は説明の中身（ワクチンの有効率）は同じだが、有効率の伝え方が異なる。
- Q4とQ5は説明の中身（ワクチンの有効率と副反応）は同じだが、副反応の伝え方が異なる。

2. 結果

- Q1に比べると、ワクチン有効率の情報を付け加えたQ2では、接種希望者が17.8ポイント増加（ $P < 0.001$ ）。
- Q2に比べると、ワクチン有効率の情報を否定的な表現に変えたQ3では、接種希望者が10.1ポイント減少（ $P < 0.001$ ）。
- Q2に比べると、ワクチン副反応の情報を付け加えたQ4では、接種希望者が11.6ポイント減少（ $P < 0.001$ ）。
- Q4に比べると、ワクチン副反応の情報をパーセント表示から人数表示に変えたQ5では接種希望者が6.6ポイント減少（ $P < 0.001$ ）。

3. 行動経済学による説明

- Q2とQ3で大きな接種希望率の差が生じた理由：人間は、文章の論理的な意味だけでなく、その文章が引き起こす感情によっても左右される傾向を持つ。回答者は、Q2で「95人は発病を防げた」と有効率を肯定的に示されたワクチンは「良い」、Q3で「5人は発病を防げなかった」と有効率を否定的に示されたワクチンは「悪い」と判断しがちである。これは、「感情フレーミング効果」として知られる現象である。
- Q4とQ5で大きな接種希望率の差が生じた理由：人間は、副反応のような小さな確率で起きる事象を正確に把握するのが難しい傾向を持つ。回答者は、Q4の抽象的な確率表現「0.02%」よりも、より鮮明なイメージを持つQ5の「20人」により強く反応し、またこの際分母にあたる「10万人」を無視しがちである。このような判断のバイアス（偏り）は、「分母の無視」として知られている。

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

ソシオネットワーク戦略研究機構（RISS）機構長・経済学部教授 本西 泰三（もとにし たいぞう）

E-mail : tmoto(at)kansai-u.ac.jp ※(at)は@に置き換えてください。

RISSは文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に認定されている関西大学の付置研究所であり、国内最大級の被験者プールを有する経済実験室を学外に開放するとともに、インターネット調査や経済実験を通じた、行動科学に基づく政策分析を行っています。今回はRISSで実施した新型コロナワクチン接種意向に関する調査のうち、現在公表する意義のある一部の結果について速報として公表するものです。分析結果の詳細については、改めて学会などの場で発表する予定です。

発信元

関西大学 総合企画室 広報課 担当：寺崎、木田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel. 06-6368-0201 Fax. 06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp